

第 16 回九州女性審判研修会報告書

報告者：長崎県 池田美紗子

講習会名	第 16 回九州女性審判研修会
期日	平成 31 年 3 月 9 日(土)から平成 31 年 3 月 10 日(日)
会場	唐津工業高校他
講師	福岡敏徳氏、中西波穂氏、窪田淑子氏
参加者	九州各県より 32 名（うち長崎県 6 名）
3 月 9 日 報告① 実技(2PO)	<p>(W) 唐津南 vs 小城 CC 池田(長崎県) U 弓削(宮崎県)</p> <p>(W) 小城 vs 早稲佐 CC 池田(長崎県) U 古賀(福岡県)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PGC での相手への伝え方 →ボールの位置とプレイヤーの位置でしか T と L の視野の当て方を伝えていなかったのので、「こう動いたら T が判定、こう動いたら L が判定」ともっと細かく約束事を決めて伝える。自分の当たり前が相手と異なることがあるから、具体的に打ち合わせを行う必要がある。 ・一試合を堂々と過ごす →自信がないと声が小さくなるなど自信があるときとないときがわかりやすい。自信がなくても判定した以上、堂々と振る舞う強さが必要。
3 月 9 日 報告② 講義	<p>講師 中西波穂氏 『女性審判の現状と課題』</p> <p>5 グループでのディスカッション形式でそれぞれテーマを決めて話し合い、発表。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結婚や妊娠・出産のタイミング 妊娠すると活動できなくなるからあの大会が終わるまでやめておこう。 →妊娠などをマイナスイメージにとらえず、ハッピーな事だと考え方を変える。周りにも女性が率先してハッピーな事だと伝えていく。 ・病気やケガした後のリハビリ 女性は男性より病気やケガの復帰に時間がかかる。 →復帰できるまで待ってもらえる環境づくり。 →必ず復帰するんだという強い思いをもつ。(モチベーション維持) ・女性審判の強さの追求 男性社会、女性は弱い、なめられるといったことから女性審判員の減少 →女性の仲間を増やす。 →悩みを吐き出し、共有する。 →毅然とした立ち振る舞いを意識する。

<p>3月10日 報告③ 実技 (3PO)</p>	<p>唐津南 vs 唐津東 CC 角田(鹿児島県) U1 池田(長崎県) U2 北村(佐賀県) 唐津南 vs 多久 CC 林瀬(福岡県) U1 池田(長崎県) U2 古賀(福岡県)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・限られた時間の中でPGCやアップを行う。 →念入りにPGCを行うことはいいことだが、念入りに行いすぎてゲーム前に十分な時間を確保できないとバタつき、落ち着いてゲームに入ることができず、結果変な判定につながる恐れがある。 ・「このプレーは私が判定する」と思い描いて動く。 →全部を見に行こうとして、無駄な動きが増え、動きながらの判定をしてしまう。細かく動くことはいいことだが、自分が判定する場面を予測して動けばもっと動きを減らすことができるのではないか。 ・プライマリの判定について、もっと責任をもつ。(CCメンタリティ) →ダブルホイッスルで判定が異なったとき、すぐ相手クルーに譲ってしまったが、プライマリのレフリーが一番見えるわけだから、もっと責任もって意見を伝えるべきである。
<p>感想</p>	<p>この研修会に参加して、私はPGCの行い方、プライマリ意識の重要性、女性審判の現状と課題等多くのことを学ばせていただきました。この研修会では毎回多くの女性審判の方と情報交換させていただき有意義な時間を過ごさせていただいておりますが、今回は講義の中にグループディスカッションが取り入れられており、女性審判特有の悩みをより深く話し合う機会を与えていただきました。自分が抱えていた悩みが自分だけでなくみんな感じていたことだったと知れたこと、また、自分一人では解決策が思い浮かばなかったであろうことがみんなで考えることで解決できたり、解決に近づくことができ、気持ちが軽くなりました。これから一人で抱え込まず周りに吐き出し、しかし、愚痴で終わるのではなく今後につながるように考えていきたいと感じました。</p> <p>最後になりましたが、今回お世話になりました窪田先生をはじめ、講師の皆様、佐賀県バスケットボール協会、派遣して下さった長崎県バスケットボール協会、県審判委員会、平素よりお世話になっている関係者の皆様全ての方に、感謝申し上げます。そして学んできたことを自分だけではなく、周りにも還元していき、長崎県バスケットボールの発展に役立てるよう、これからも精進していこうと思っております。ありがとうございました。</p>